

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター伊予くじら		
○保護者評価実施期間	7年 11月 1日 ～ 7年 11月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33 (回答者数)	29
○従業者評価実施期間	7年 11月 1日 ～ 7年 11月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23 (回答者数)	18
○事業者向け自己評価表作成日	8年 1月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	静かで身近な自然や児童館、公園など地域の遊び場が周辺にある環境を生かし、様々な活動体験を設定することができる。 全身を使う運動、手指操作、感触など様々な方向から働きかける遊びを行っている。	季節に応じた体験ができるような設定遊び 季節の活動・・・水遊び、泥遊び、ボディペイント、虫捕り、芋ほり、落ち葉遊び等 行事・・・ハロウィン、クリスマス会、夏祭り等	地域の子どもたちと共有できるイベントの検討
2	保護者、子どもの課題に応じた併行通園、毎日通園、親子通園の方法を選択できる。	併行通園先とセンターでの子どもの様子を確認し、課題の把握に努めた。必要に応じ、アドバイスを行った。	センターから併行通園先への訪問、面談の回数を増やし、密な関係作りに努める。 また、センターの利用が無い市内の保育施設についても、今後は積極的に出向き、悩みの共有をしながら役に立てるようにしていきたい。
3	作業療法士、心理士による専門的支援	個別または小集団での活動を提供 作業療法では、ホールを使用し様々なコースを設定、楽しく運動遊びを行っている。職員、保護者への助言も受けている。 心理士では、定期的に発達検査を受け、個々の課題を分析している。	今年度は不在となった言語聴覚士の配置 また、医療的ケア児の受入れについても、検討をしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員のスキルに差が大きい。	パート職員が多く、勤務を希望する時間に片寄りがあり入れ代わりも多い。 障害児支援の経験者が少ない。	正規職員の配置を増やす。 障害児支援の理解を図る研修を増やす。（療育施設の見学、外部の研修会、事例検討会等）
2	職員の定着	障害児支援の経験をしている職員が少なく指導できる職員が少ない為、この仕事の魅力を伝えるに至らず離職する方がいる。 また、職員間のコミュニケーション力が問題での退職者もいる。	経験からの指導だけでなく、職員の定着には、働きやすさ・人間関係・成長実感・地域とのつながりを重視した、継続的な職場改善をしていく。 また、様々な研修会の参加により職員自身が自信をもって働けるようにしていきたい。
3	保育園等施設との連携	保育園施設等の問題に他応できる職員が少なく、地域の問題に対応しきれっていないのが現状	他施設と連携した職員の養成は、教育資源の共有と職員の成長機会を拡充し、地域全体で人材を育ていくことが必要と考えます。市内の保育施設職員とも連携しながら対応できる職人に経験機会を設けて職員を育てていきたい。